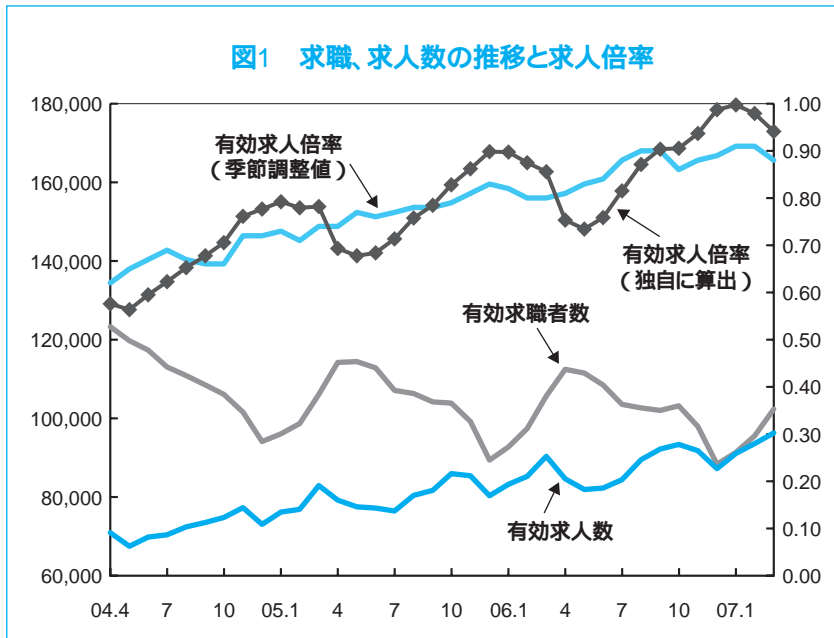


有効求人倍率

毎月発表され、求人と求職者の比率という分かり易い指標であることから、雇用関係の中でも注目される指標のひとつです。

発表される数値は季節調整値で、実際は季節変動の激しい指標



有効求人倍率は有効求人数÷有効求職者数の値です。なお、有効求人数とは、過去3ヶ月間に募集されながら決まらなかった求人の数、有効求職者数は過去3ヶ月間に求職届けを出しながら、就職に繋がらなかった人の数です。

図1は福岡県の有効求人数、有効求職者数、その比率である有効求人倍率(当行にて独自に算出)、有効求人倍率(季節調整値)の推移を見たものです。有効求人数は緩やかな増加

基調をたどっていますが、有効求職者数は、1～4月に増加した後、5～12月には減少するという変動を繰り返しています。その為、単純に計算した有効求人倍率は、1年間に約0.3ポイント程度増減することになっています。季節変動の影響が大きいため、景気動向を見るときには、季節変動の影響を排除した季節調整値が使われています。

改善が続いていても踊り場に見える事もある

季節の変動以外でも、データの性格から、雇用情勢をそのまま反映していない可能性があります。例えば、雇用情勢が改善すると、それまでは就職を諦めていた人達が求職を始めることがあります。また、職を持っている人が転職のために応募することもあり、求職者数は逆に増加することがあります。その時には、求人倍率の改善は足踏みとなり、雇用情勢の改善も止まった様に見えます。

様々な理由によるミスマッチの存在

求人倍率が1.0倍となると求職者全員が就職できる状況だという事になります。しかし、求人と求職者の間には様々なミスマッチがあり、実際には就職はそれほど進みません。具体的には、医師や看護師などの有資格者の求人には、資格を持った人しか応募できません。また、遠隔地の求人もあります。ほかにも、人材派遣業の求人はそのまま就職できるわけではありません。

雇用情勢の改善は個人所得の増加、ひいては景気の拡大に繋がると考えられます。様々なミスマッチが克服され、就職が更に進む事が期待されます。(中村)

「雇用失業情勢について」(福岡労働局)